

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」秋田大町校			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数)	44
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月9日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>十分なスペースがあり、プライベートが保護されている。</li> <li>教材や教具、玩具が充実している。遊ぶスペースも確保されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が周囲を気にしないように、視覚的、聴覚的な配慮を常に心がけている。</li> <li>最新の教具や教材、玩具を提供するようにしている。</li> <li>より多くの視点で児童の様子を観察し、個別支援計画に沿った支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の個性に合わせた室内環境を整備する。</li> <li>児童の個性に応じて教材や教具の活用方法を工夫する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別療育により利用者に寄り添った支援を展開しており、相談や情報共有をタイムリーに行っている。</li> <li>全指導員が全児童をよく理解しており、普段のフィードバックや事業所内相談での情報交換も十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の変化や様子を細かく観察し、その日その日の個別プログラムを工夫している。</li> <li>全職員が全児童に個別支援ができるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互の支援見学や研修内容の充実により、支援の質の向上を図る。</li> <li>これまで以上に丁寧な家族支援を行う。</li> <li>児童、保護者、教室の三者がお互いに高められる支援を展開する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本人員配置数が+3名である。</li> <li>資格保有種類が多い。（保育士・幼稚園教諭、教員免許、作業療法士）</li> <li>専門的支援を実施できる人3名いる。（保育士5年以上2名、作業療法士1名）</li> <li>指導員の年齢層に幅がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社内研修には月1回以上参加し、所持資格以外の知識やスキルを身に付けている。</li> <li>教室内での研修や、職員間で普段の情報交換時間を多く設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本人員+3名の強みを活かし、小集団での支援を提供する。</li> <li>自ら研修に積極的に参加する。また、他指導員から専門的なアドバイスを頂き、自らの支援に活用する。</li> <li>各事業所が実施しているイベントや研修会へ参加する。</li> <li>現資格以外の資格を積極的に取得する。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語聴覚士、心理系の職員が在籍していない。</li> <li>放課後等デイサービスの経験年数が浅い職員が在籍している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語聴覚士、心理系資格を取得している絶対数が少ないため、採用には繋がっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が言語聴覚療法や心理系の研修に参加し多くの知識や技術を獲得する。</li> <li>社内での資格保有職員から助言指導を受ける。</li> <li>支援数を積み重ね、より多くの経験を積む。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民との交流や他事業所との交流が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会や他事業所へ積極的にアプローチする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会の代表者と話し合い、防災訓練を合同で実施できる。</li> <li>地域の行事や祭り等に参加できる環境を整備する。</li> <li>教室を解放し地域住民との交流の場を提供する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の築年数が経過している。</li> <li>戸のレールがフラットでない場所等もあり、完全なバリアフリー化が進んでいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー化は現段階では急務ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な場所は早急にバリアフリー化を進める。</li> <li>消毒や清掃、換気の徹底を図り、利用者が安心安全で快適に過ごせるようにする。</li> <li>定期的に校舎内外の安全点検を実施し、修理や改修を迅速に行う。</li> </ul>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 秋田大町校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 48

回収数 44

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	39	5	0	0	・ゆったりとして活動し易そうです。	・限られた空間を最大限利用し、安心安全な支援を提供できるように努めます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	43	1	0	0		・必要であれば配置人数を増やします。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	41	1	0	2	・すっきりとして活動に集中できます。	・今後も安全を第一に考えた支援スペース提供します。・必要となれば建物の改善に努めます。・どの児童も利用しやすい生活空間を提供します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	44	0	0	0	・清潔に保たれていると思います。 ・スリッパを脱ぐスペースが分かりづら いです。	・清掃・消毒・換気の徹底を図り、全利用者が利用しやすい空間を提供します。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	44	0	0	0	・どの先生も特性に理解があり支援の内容が充実してます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	44	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	44	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	43	0	0	1		・放課後等デイサービスガイドラインを読み直し、それを踏まえて適切な支援に努めます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	43	0	0	1		・職員間で児童の共通理解を図りマンネリ化や固定化されないように工夫します。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	23	5	4	12	・今後あれば良いと思います。	・関係機関と情報を密にし、教室を開放し交流の場を提供します。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	44	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	44	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	39	2	0	3		・保護者からのニーズが高まれば、外部の講師等呼んで研修の機会を設けたいと考えています。 ・家族が参加出来る研修会の情報提供を定期的に行っていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	44	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	43	1	0	0		・全職員が全利用者に対して指導や助言ができるように努めます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	43	1	0	0		・今後とも児童の個性を理解し利用者に寄り添うサービスを提供します。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	26	6	3	9	・今後あれば良いと思います。	・現在保護者会等はありませんが、このような会の要望が高まれば立ち上げたいと思います。 ・今後もイベントを利用しきょうだい児の交流の機会を設けていきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	41	3	0	0		・対面や電話、ZOOMを利用しこれまで以上に迅速かつ丁寧に対応します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	42	1	0	1		・利用者との意見交換や共通理解を図りやすい場所の提供をします。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	36	5	1	2		・定期的にSNSの発信を心掛けるとともにイベントや大切なお知らせがある場合は随時発信します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	43	1	0	0	・事業所のパソコンの中身が丸見えになっているのが少し気になります。	・パソコンやSNS、書面での個人情報の取り扱いをこれまで以上にきちんと管理します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	36	4	1	3		・安全計画や防災関係の周知の方法を工夫し、保護者に理解しやすい形にいたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	32	4	2	6		・防災イベントなど防災への意欲が高まる企画を計画し、利用児が参加しやすい形で支援に取り入れていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	40	1	1	2		・計画については口頭や紙面での周知徹底を図ります。 ・これまで以上に安全確保に気を付けた支援に心掛けます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	34	4	2	5		・契約時以外でも紙面や口頭にて定期的に説明するように心掛けます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	44	0	0	0	・ASDの特性を理解した安心感のある対応をして頂いてます。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	42	2	0	0	・むらがあります。 ・学校嫌いの子ですがこちらでの学習は楽しんでいます。	・児童も保護者も支援を楽しみに来所されるようにサービス内容を工夫します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	44	0	0	0	・子どもの自己効力感や達成感、自己肯定を育む支援をして頂いてます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
秋田大町校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・支援の内容によってパーテーションで支援スペースを仕切る場合もある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		・基本人員より職員配置数を多く配置している。 ・3名専門職の配置をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・生活空間は安全を第一に考えている。 ・プログラムに取り組みやすい教室空間を作っている。	・バリアフリー化が十分でないため、必要箇所の改善が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日の清掃や毎時間の机や椅子、教具の消毒、換気等を丁寧に実施している。 ・空気清浄機を全室に設置している。	・冬季の換気対策の徹底。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・支援内容やや児童の個性に合わせたスペースを工夫している。 ・クールダウン室を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・出勤者全員で毎日の打合せや、定期の月例ミーティングや臨時会議等で業務改善を進めている。	・全職員が見やすく分かりやすいPDCAサイクルを作成する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価表に基づき、改善のための会議を開き業務改善に繋げている。	・保護者向け評価表の回収率を高めるための対策を講じる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・風通しの良い職場環境に務めている。日々の打合せや月例ミーティング、1 on1面談を実施し業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価は実施しておりません。 ・常日頃から保護者様や関係機関との情報交換を図り業務改善に繋げている。	・保護者様や関係機関から積極的に意見を伺う体制を整える。 ・必要であれば会社と相談して外部評価を取り入れる方向にする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・社外研修には積極的に参加できる体制を整えている。 ・各種社内研修は必須での参加である。	・必要な資格を取得するための研修機会を確保する。
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・個別支援計画を基に児童の個性に合った支援プログラムを作成している。 ・職員間相互でプログラムの確認、見直しを行っている。	・支援プログラムの内容や順番を変更したり児童の気持ちを優先した療育の充実を目指す。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・定期的なアセスメントを実施している。定期的以外でも児童の環境が変化する時や保護者様の要望があればその都度実施しており、個別支援計画作成の作成に繋げている。	・保護者様のニーズや児童の環境を常に把握する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・定期的な担当者会議だけでなく普段から個別支援計画原案の見直しに取り組んでいる。	・多くの視点で立案する。 ・これまで以上に職員間での報告や情報共有を密にし、個別支援計画の作成に活かしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・個別支援計画に沿って、各指導員が専門性を活かしたプログラムを作成し支援を行っている。	・個別支援計画はその期間以外でも見直しを図る。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・今年度からアセスメントシートを改善した。また、児童の様子については日々のフィードバックで確認しており職員間で共有している。	・全職員がアセスメントシートを基に個別に応じたより良い支援プログラムが作成できるようになる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・事業内相談を活用しながら家族支援に繋げている。 ・5 領域の徹底理解を図る。	・全職員が定期的にガイドラインの読み直しを実施する。 ・地域住民代表者と話し、地域支援連携の取り組み方を考えていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・教室の規模や環境、児童の個性に応じてより多くの視点で立案している。	・普段の児童の様子に主眼を置き立案に関する話し合いをより活性化する。 ・これまで以上にプログラムのアイデアを出し合う。

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・プログラムや支援内容はマンネリ化しないように各指導員が工夫している。 ・指導員間でプログラムや支援内容のアドバイスをする。	・職員相互による支援プログラムと支援記録を読み、意見交換をより活性化する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・月に1回から2回程度定期的な小集団活動を継続的に実施している。	・小集団活動や支援時間について柔軟な考えを持って改善に努める。 ・児童の個性に応じた療育を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎日打合せの時間を設けており、口頭および紙面にて児童の様子を職員間で共有している。 ・職員朝会時にその日の支援の確認をしている。	・これまで以上に多くの時間をあて情報交換を活発にする。 ・児童への日々の観察をこれまで以上にこまめに行い、情報交換を活発にする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・児発管は支援記録を毎日確認するようにしている。 ・夕会を設け、大切なことは情報交換している。	・これまで以上に報連相の徹底を図る。 ・必要であれば終礼時間を延長し情報共有を図る。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・職員間で支援見学を実施している。 ・職員相互で支援記録の確認を行い、気が付いた点があれば改善につなげる。	・よりきめ細かく支援記録を記入する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・児童の生活環境が変わればモニタリングはその都度実施している。	・全職員が十分なモニタリング記録を記入し、職員間での情報共有の徹底を図る。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・「総合支援型」の放課後等デイサービスを意識して支援を行っている。	ガイドラインの定期的な見直しの回数を増やす。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・個別支援計画に自己決定をする力を育てるためのプログラムを取り入れている。 ・普段の療育内で自己決定する機会を設けている。	・支援の工夫のため様々な知識や技術を習得する。 ・自己選択できる支援プログラムの工夫を図る。 ・複数のプログラムを用意する。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・主に担当指導員が参加している。提出する書面は全職員で対応している。 ・保護者から担当者会議に出席して頂きたい職員を指名する場合もある。	・全職員がサービス担当者会議に参加できるよう子どもの状況や発達段階を精通できるようにする。 ・提出書面を工夫しより分かりやすいものにする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・発達検査の情報共有を行っている。 ・定期的に協力医に訪問し情報交換を図っている。	・関係連携機関数を増やし、これまで以上に情報共有に努める。 ・医療機関とは紙面の他口頭で情報を共有する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・保護者様や相談支援員から情報を提供して頂いている。	・担当者会議には複数人出席する。 ・トラブル発生時にはタイムリーに対応するような連絡体制を整える。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・相談支援や関係機関を通じて紙面や口頭での情報共有をし相互理解に努める。 ・情報交換を図れるように関係事業所へ提案する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・情報を提供しています。	・これまでは口頭のみであったが紙面でも情報共有を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・定期的に訪問し、情報交換を図っている。	・特定の職員だけでなく全職員が連携を図る。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・利用者からの要望があれば応えるようにします。 ・教室側から積極的に交流を機会を提供します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・職員が参加できるようにしている。	・複数人で参加できるように対応する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・普段のフィードバックや事業所内相談で話し合える環境を整えている。 ・電話やライン、zoomでも常に情報交換ができるように努めている。 ・保護者と話す機会や時間の確保をしている。	・これまで以上に丁寧なフィードバックや事業所内相談に努め、全職員で情報を確認する。 ・保護者様には支援を月に1回以上は見て頂き、発達状況や課題について共通理解を図る。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・事業所内相談でお子様の対応の仕方についてご質問があったときは知識と経験から考えられる対応の仕方をお伝えするようにしている。	・保護者向け研修会やイベントを企画し保護者様同士の交流、情報交換の場を定期的に設定する。 ・ペアトレーニング研修会に全職員が参加する。 ・ペアレントトレーニング回数の増加。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・全職員ともに運営規定は理解しており、保護者に対して丁寧な説明ができるようにしている。	・契約時および規定変更時にこれまで以上に丁寧な説明を行う。



保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・保護者とのモニタリングや相談支援員から支援計画表や相談員と口頭で情報交換を図っている。	・利用者様の意向をきちんと理解した上で、これまで以上にサービスを提供する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・支援の達成度や今後の課題、個別支援計画や専門的支援実施計画をかみ砕いて説明している。 ・5領域については特に説明している。	・これまで以上に丁寧な説明を実施する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・全職員が必要な助言と支援が実施できるような研修の確保に努めている。 ・教室内で指導員による研修会を実施している。	・全職員が全保護者に対して必要な助言ができるような知識とスキルを身に付ける。 ・保護者様のニーズに柔軟に対応する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	・保護者会はありません。 ・兄弟児には教室解放をしている。	・ペアレントトレーニングの実施をする。 ・定期の曜日、定期の時間に教室を開放し、保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者様からの要望があり、必要であれば保護者会を設置する。 ・小集団では保護者様やきょうだい児の交流の場を提供する。 ・ファミカフェを開催します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・電話、ラインにて迅速に対応している。	・苦情について、これまで以上に紙面と口頭で職員間で情報共有を図る。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・定期的なSNSの発信に努める。 ・イベントでは活動内容画像を配信している。	・情報発信内容の充実を努める。 ・全職員がSNS発信のスキルを高める。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・SNSは本人が特定されないように徹底している。 ・工作などの掲示物は氏名が特定できないように配慮している。	・個人情報取扱にはこれまで以上に気を付ける。 ・書庫のカギに徹底やパソコン管理を十分にする。 ・紙面はシュレッダーの徹底を図る。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・利用者様が相談や情報交換がしやすい環境を整えている。	・これまで以上に利用者様が相談や情報交換がしやすい環境を整える。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・現在地域住民を招待する事業は行っておりません。	・事業所の周知活動を図り開かれた教室を目指していく。 ・地域住民と相談して、防災訓練を合同で実施する。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・安全計画に沿って定期的な防災訓練の実施をしている。 ・各種マニュアルの定期的な読み直しをしている。 ・保護者様には契約時やモニタリング時での周知徹底を	・災害時や緊急時には全職員が臨機応変に対応できるようにさらなる訓練を実施する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPの定期的な読み直しをしている。 ・防災関連品を常に持ち出せるようにしている。 ・児童に合った訓練を実施している。	・災害時や緊急時には全職員が臨機応変に対応できるようにさらなる訓練を実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・基本情報シートや口頭で保護者様と情報交換をしている。 ・予防接種の把握は実施してません。	・職員間で紙面および口頭での情報共有の徹底を図る。 ・発作等が発生した場合は全職員が臨機応変に対応できるスキルを身に付ける。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・紙面での保護者から情報を頂く。 ・紙面と口頭で保護者と情報交換を図っている。	・お菓子の配布時はその都度保護者と口頭で確認することの継続。 ・医師から指示書を受領する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・定期的に備品や教具との点検を行い、記録を残している。	・常に安心安全な教室運営を目指す。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・避難場所や連絡体制について、把握している。	・安全計画を閲覧したサインの受領。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・校舎内の構造上の危険箇所や児童の特性を職員間で共通理解をしている。 ・定期的に過去のヒヤリハットの読み直しや他校でのヒヤリハットの情報共有を図る。 ・会社で虐待防止研修を実施している。	・事故を未然に防ぐために予測できる能力を全職員が身に付ける。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待を未然に防ぐために教室内で定期的な会議を開く。	・全職員が虐待防止の知識を身に付ける。 ・職員相互での支援見学を実施する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・職員間で情報共有を徹底する。	・契約時には今まで以上に丁寧に説明をする。 ・全職員が身体拘束の知識を身に付ける。